# 令和５年度全国学力・学習状況調査における

# 北九州市立　　木屋瀬　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## １．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

| 教科に関する調査（国語、算数） |
| --- |
| ①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
| --- |
| ○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

## ３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

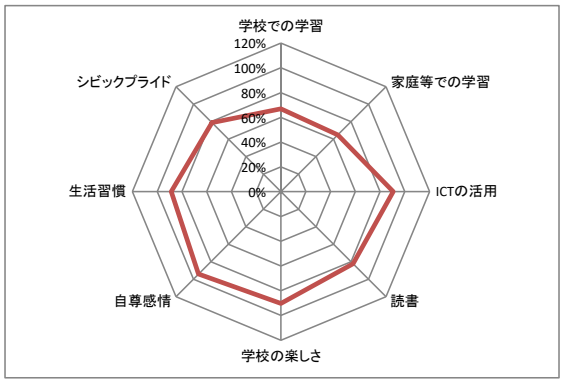
| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|---|---|---|---|---|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 9.4 | 59 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 10.0 | 63 |

⑵　本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|---|---|---|---|
| 国語 | 全体的な<br>傾向や特徴など | 全体的に見ると、概ね全国平均と同じであった。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと、原因と結果など情報と情報との関係や図などによる語句と語句の関係の表し方について特に理解することができている。しかし、全国的にもだが、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書くことや文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることは課題である。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、自分の考えをまとめたりする問題 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 算数 | 全体的な<br>傾向や特徴など | 全体的に見て、全国平均よりもかなり下回っており、基礎基本の定着に課題がある。特に、「図形」の領域では、図形の意味や性質についての理解に課題がある。全国平均との差が大きい領域は「データの活用」であり、データの読み取りや示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することが課題である。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 「図形」「データの活用」に関する領域の問題 | |

## 4．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要




| 質問紙調査の結果分析 |
|---|
| ・学校での学習では、自分の考えをまとめたり、自分の考えが伝わるように工夫して発表したりすることができていないと感じている児童が多い。<br>・家庭での学習があまり定着していない。<br>・学校内の学習でのICTの活用ができており、勉強の役に立つと感じている児童が多い。<br>・読書が好きな児童は半数以上いるが、読書をする児童は全体の３割程度と読書に親しむ児童が少ない。<br>・学校に行くのが楽しい、友達関係に満足していると答えた児童が８割近くと多い。また、自尊感情も高くなっている。<br>・生活習慣では、毎朝同じ時間に起き、朝食も食べている児童が多い。<br>・シビックプライドでは、地域の行事に参加している児童が半数以下と少ない。 |

## 5．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

　自分の考えを書く活動を取り入れていく。また、話し合いの活動を積極的に行い、自分の考えをまとめて相手に伝えたり、相手が伝えたいことは何かを捉えたりしながら聞くことができるようにしていく。授業の終末などに練習問題に取り組む活動を確保して、学習内容の習熟を図る。
　学びのユニバーサルデザイン（UDL）による分かる授業を提供し、分かった・できた・もっとを実感する授業を推進する。

②　家庭生活習慣等に関する取組

　朝の読書タイム、子ども読書の日などを活用して、読書に親しむ時間を増やしていく。
　学びフェスタ（自学ノートコンテスト）を実施するなど、自学を中心としながら家庭学習が習慣化するように、家庭と連携を図っていく。